

宮の森



櫂の養生と杉の間伐



当神社の宮の森は岐阜県の天然記念物に指定されている。

そこには櫂が九十二本、杉が百八本が主体に生えている。双方がランダムに混在していて、生存競争が激しい。櫂は杉の成長に押されて木が変形し、成長が阻害されている。本来は櫂が御神木とされているが、このまま行くと杉に征服されてしまう恐れがある。その道の権威である岐阜大学の林進教授に診断をして頂き、櫂に隣接し成長に悪影響を与えている杉の間伐は必要であるとの答えをいただいた。岐阜県教育委員会にその旨、伝えて間伐の申請をして許可されました。加えて、稲荷神社前の推定樹齢七百年前後の大櫂が枯渇を始めている。この養生も林教授の指導の下に行いました。

完全蘇生は望めないが、枯渇を抑え、延命は可能と言った事でした。枯れ枝の落下には注意を払う必要がある。



表彰状

全国各地の小さな神社では、人口減少から管理が思うに任せない状況が出て、神社の森が放置状態であるようです。出来る時にやっておこうと総代の皆さんに出いたいただき作業を行いました。



貴方は常に敬神の念篤く多年にわたり神社の護持運営に力を尽くし神徳昂揚に貢献せられた功績は誠に顕著でありますよってここに記念品を添えて表彰します。



昨春秋、曾我幸男、清水弘、金子明の三氏が岐阜県神社庁郡上支部の表彰を受けられました。



曾我幸男、清水弘の両氏は、五十有余年に渡り、白鳥神社大神楽の護持運営に携わり、その発展に尽力してこられました。金子明氏は、白鳥神社社守として十五年の長きに渡り務められ、神事全般にわたり宮司を補佐してこられました。三氏とも、郷土の伝統文化を奉仕の精神で一途に守っていただきました。お礼を申し上げますと共に、この先もご壮健で、神社が万人に愛されるようにお力添えを戴ければ幸いと存じます。

今年の元日

今年には明治百五十年の年に当たる。平成の元号が丸一年あるのは今年が最後である。今年の中頃に新元号が発表され来年四月二十日をもって平成は終焉する。

時代の移り変わりゆくのは世の常。白鳥神社の初詣も様変わりしてきた。NHK紅白歌合戦が終わると、人は動き出す。近くの菩提寺に寄り除夜の鐘を突き、神社への初詣となる。十二時を跨ぐ頃にきて、その年の無事を感謝し、新年もご加護下さいとお参りされる。

それが十二時、一時頃をピークにして、少しずつ減り



ゆっくりとお宮に来られる感じがする。

世はまさに競争時代だと言つのに、昔の様に競ってお宮参りの姿は消えた様だ。余裕なのだろうか？ ゆっくり来ていただけるのも有難い。だが待ち構えている方としては、活気が薄れ、何となく肩透かしを食った感じがしないでもない。世の中が落ち着いてきたのだろうか？ 今年も多くの献酒、お年賀をご奉納いただきました。身を切る寒さの拜殿で、自治会三役をお迎えし、来られた方々と賀詞を述べ合い歳旦祭を執り行いました。

祈年祭・初午神事

二月四日 午前十時より、拜殿において、関係者五十名にて祈年祭と初午祭を同時に挙行致しました。



祈年祭はその年の五穀豊穣を初午祭は主に商売繁盛を願う神事であります。秋の新嘗祭は豊年感謝の神事で、この祈年祭と是一对をなすものであります。日本の農業は縮小気味ですが、国の根幹をなすものです。捻り多き年であることを念じ玉籾を奉奠しました。

厄払い神事

一月二十五日 拜殿にて厄払い神事を挙行。
今年、厄年を迎える、昭和五十一年生まれ、四十二歳の男性九人が参拝された。男性の四十二歳は男の厄年と言われております。昨年は前厄、今年が本厄と言う事で、厄払いをされました。本日お参り下さった方々は、



岸野健次 様(大和)
葦島 朗 様(白鳥)
北洞良憲 様(白鳥)
渡辺 剛 様(白鳥)
田中克己 様(為真)
佐藤有司 様(向小駄良)
森 誠司 様(二日町)
竹下秀樹 様(那留)
一島豊和 様(為真)

この先のご健康、ご活躍をお祈り致します。

十八号組……田中幸光 十九号組……清水万亀男
宮司・瀬上孝男、社守・金子 明、手伝・正者憲次
総代長・瀬木重瀧、副・曾我幸男、副・三輪規裕
監査役・瀬上通博、北條弘二(赤字は新任者です)

御寄進・ご奉仕

一、テーブル、椅子23……鷺見勝也様
一、拜殿・扉修繕……川崎 弘様
一、機械による除雪作業……曾我工務店様
一、機械による除雪作業……正者憲次様
一、宮の森間伐作業……二輪英一様
一、例祭用草履草鞋九十八足……三輪英一様
一、草鞋 十二足……野崎利行、金子明様

白鳥神社の秘密(六)……友田勝也

石徹白の白山中居神社から長滝白山神社と白鳥神社を貫いて、明建神社方面へ一直線に伸びるエネルギー・ライン。そのラインをつなぐ中継局ともいうべきものが、磐座(いわくら)なのではないかという仮説を掘り下げてみます。

巨大な「黄金の柱」となって白山に降り注ぐ「宇宙エネルギー」を活用するため、「タタラの民」はまず、白山の真南の盆地・石徹白に磐座を置いたのです。別山などを通じて南方向にほとぼり出る白山のエネルギーを、中居神社の磐座で受け止め、その流れを南東方向に屈曲させる。そのラインは真つ直ぐに長滝白山神社へと向かいます。「宇宙エネルギー」を受信し、その力を増幅してさらに南東へと送るには、長滝にも磐座が必要でした。そう、実際に彼らは磐座を設置したのです。

それに気づいたのは、真言密教の達人・長典男さんでした。2015年の年末、白鳥神社を抑え込んでいた強烈な結界を解いた後、僕たちは長さんを長滝白山神社にご案内しました。神社本殿や長瀧寺に参拝した後、長さんは「自分たちを呼んでいる場所がある」と呟いて、本



殿の裏側方向へと歩いていきました。やがて、今は空き地になっている平らな場所に足を止め、目に見えない存在としばらく無言で交信されました。そして、かつてそこに巨大な磐座があったこと、のちに何らかの理由でそれが破壊され、跡形もなく撤去されてしまったことなどを感受したのです。まさに、長滝の知られざる歴史です。

そのことを裏付ける文献や資料があるのかどうかは確認していません。ただ、僕が信頼する別の霊能者の方も磐座の存在について長さんと全く同じメッセージを受けています。僕自身、これは真実だろうと考えています。(次回に続く)

オリジナルTシャツを作成

大神楽の役者衆が発案して、自分達のTシャツを作成した。これを着る事で大神楽の伝承者である事に誇りを持ち、団結をして伝統文化を守ろうと一枚のシャツに心を込めました。制作に当たっては別府スクリーン様のご協力を戴き、胸に白鳥神社の落款を施しました。ご希望の方はお申し出ください。白鳥神社のTシャツとも言えます。

一枚 千五百円です。ご希望の方は090-1476-5875 西村典之まで。



御朱印受付

ご希望の方は0575-82-4387・瀬上まで

(文責・瀬木)

護持運営

この二月で左記九名の総代が交代されました。
石神栄一様、鷺見勝也様、野々村昇様、正者英雄様、曾我 誠様、曾我 勝様、曾我嘉博様、北山一朗様、葦島晋一郎様 白鳥神社に対しまして、衷心よりのご協力、誠に有難うございました。

四月からは左記のメンバーで護持運営に当たります。ご支援、ご協力を宜しく申し上げます。

一 号組……山下 修 一 号組……野々村近則
二 号組……古家孝一 四 号組……曾我幸男
五 号組……正者郁郎 六 号組……荒井義隆
七 号組……森 正明 八 号組……野崎元久
九 号組……松井利憲 十 号組……正者美昭
十一号組……曾我健一 十一号組……三輪規裕
十二号組……葦島一隆 十四号組……川崎 弘